



江別市

HOKKAIDO EBETSU CITY

市勢要覧

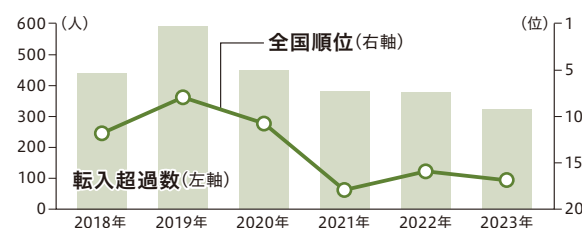


(人)		
1	さいたま市(埼玉県)	988
2	町田市(東京都)	856
3	茅ヶ崎市(神奈川県)	668
4	つくば市(茨城県)	535
5	札幌市(北海道)	517
6	八王子市(東京都)	487
7	箕面市(大阪府)	466
7	明石市(兵庫県)	466
9	柏市(千葉県)	429
10	都城市(宮崎県)	415
11	平塚市(神奈川県)	368
12	印西市(千葉県)	367
13	奈良市(奈良県)	360
14	千葉市(千葉県)	340
15	草津市(滋賀県)	326
16	枚方市(大阪府)	323
17	江別市(北海道)	322
18	糸島市(福岡県)	320
19	野田市(千葉県)	304
20	大津市(滋賀県)	303

子ども(0~14歳)の転入超過数

6年連続
全国20位以内

江別市の0~14歳の転入超過数(過去6年分)



充実したアクセスや宅地の取得しやすさ、豊かな自然環境などから、14歳以下の子どもの転入超過数が平成30年から6年連続で全国20位以内となり、子育て世代から選ばれるまちということが裏付けられています。
※住民基本台帳人口移動報告 2023年(令和5年)結果より

人口
118,190人

※令和6年8月1日現在

人口に対する 大学生の割合

道内1位

市内に4つの大学、1つの短期大学があり、学生の人口は約1万人。若く活気のあるまちです。
※令和4年 道内35市調べ

重要文化財2件

北海道江別太遺跡出土品、
北海道元江別1遺跡土壌墓出土品

大麻3遺跡の土偶→全国でも珍しいペアでの発見
江別式土器 → 縄文が施された最後の土器
江別古墳群 → 現存する道内唯一の古墳



江別の歴史は1万年前、縄文時代から始まっていました。市内の遺跡から発掘された、江別で採れる豊富な粘土を使った土器や土偶が江別市郷土資料館に数多く展示されています。そのものづくりの源流は、れんが製造や陶芸に形を変えて今も息づいています。

▲江別市郷土資料館には縄文土器がズラリと展示されている。
▶「江別のれんが」は北海道遺産に登録されている。
セラミックアートセンター中庭 原田ミドー作「風の門」



レタス

作付面積 52.5ha

収穫量 1,854t

市内の公園数

※緑地・緑道を含む

232カ所

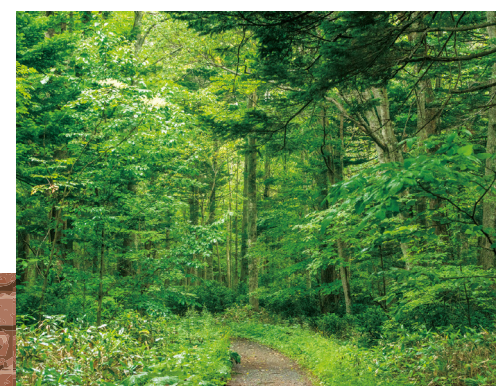


大小さまざまな公園が市内に232カ所。豊かな緑が身近にあり、憩いの場所として親しまれています。

都市計画区域における 緑被率

81% (札幌市 56%)

※第2次江別市緑の基本計画(令和6年3月版)、第4次札幌市みどりの基本計画より



ブロッコリー

作付面積 217.0ha

収穫量 2,705t

米や小麦、大豆などの農地が広がる江別市。大消費地・札幌市に近いため、新鮮さが求められる葉物をはじめとする野菜の栽培が盛んで、特にブロッコリーとレタスは道内屈指の作付面積を誇っています。
※令和6年 江別市統計書より



数字で分かる /

江別市

耕地面積

7,020ha

市面積における耕地の割合37%

石狩管内

6市中1位

江別市は札幌市の隣でありながら、広大な農地があります。その面積は総面積の4割弱におよび、東京都23区で最も広い大田区(61.86km²)を上回ります。
※北海道農林水産統計年報(令和4年~5年)より

江別市DATA

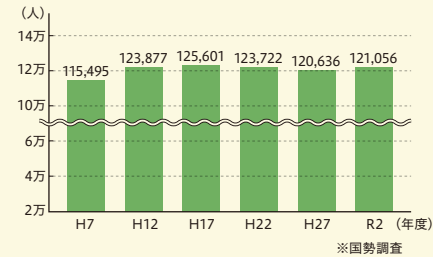
(令和6年8月1日現在)

人口 **118,190人**

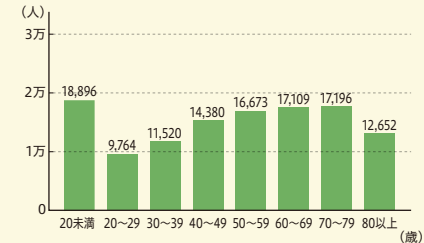
世帯数 **59,785世帯**

面積 **187.38km²**

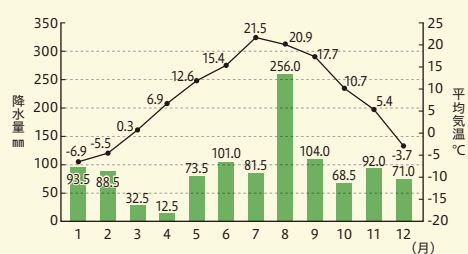
・人口の推移



・年齢別人口 (令和6年8月1日現在)



・平均気温及び降水量 (令和4年)

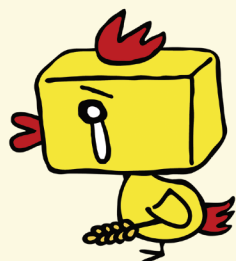


市の花 キク

市の木 ナナカマド

姉妹都市 アメリカ・オレゴン州
グレシャム市

友好都市 高知県土佐市



©えべちゅん.jp

えべつ観光協会ゆる認定キャラクター

えべちゅん

Access

江別市は札幌市からJR函館本線で約20分(野幌駅)。市の中央部には国道12号と道央自動車道が走り、江別東・江別西の2つのインターチェンジがあります。



Contents

02 数字で分かる 江別市

05 アクセス&江別市DATA

06 What's 江別

08 教育 16 協働のまちづくりの推進

12 子育て 18 自然と共に生きるまち

14 産業

えべつ

幸せが未来へつづくまち

令和6年3月に策定された「江別市のまちづくりの構想である「えべつ未来づくりビジョン」(第7次江別市総合計画)では、将来のまちの姿として「幸せが未来へつづくまちえべつ」を掲げています。これは、市民5,000人を対象としたアンケート調査や、中学生・高校生・大学生をはじめ、子育て中の人や高齢者、自治会や福祉関係団体など30のグループと、まちの課題や未来について意見を交わして完成したものです。

「いつまでも元気なまち」「みんなが支え合う安心なまち」「子どもの笑顔がふれるまち」「自然とともに生きるまち」「新しい時代に挑戦するまち」を基本理念に、より良い未来に向けてまちづくりを進めています。



江別市は、子育てと教育のまち。充実した子育て支援制度と特色ある教育で、安心して子育てができる環境と子どもが健やかに育つ環境が両立するまちを目指しています。

子育てしやすい

魅力的な店が増えている



便利なスーパーマーケットは15カ所以上。地場産品を数多く扱っているお店も充実。個性的な飲食店が立ち並ぶエリアもあります。

コンパクトで混雑していない

市内を横断するJRの駅を中心に広がる、江別のまち。江別市の面積187.38km²は、道内179市町村中139番目。しかも市街地や商業地が集積しているので、よりコンパクトに感じられます。可住地(人が住み得る土地)面積は、総面積の89.8%で、札幌市の39.1%、北海道全体の28.9%よりもはるかに高いというデータもあります。

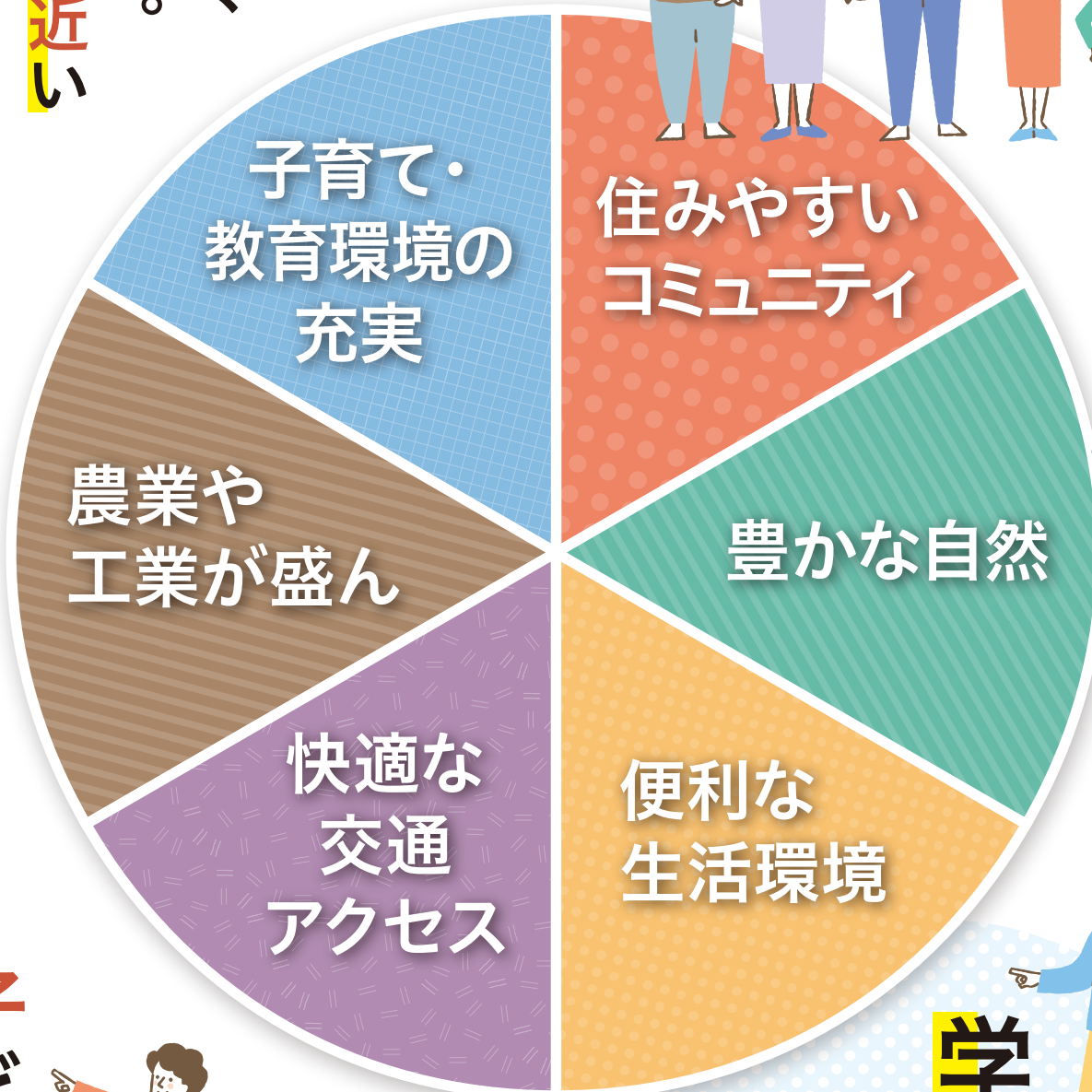
交通のアクセスが良い

JRなら野幌駅～札幌駅は約20分。バスは新札幌駅を結ぶ路線や、市立病院など市内の主要拠点を結ぶ路線があり、便利に利用できます。



都会過ぎず、田舎過ぎず。札幌市から近い

江別市の人口集中地域の人口密度は4,496人/㎢。札幌市の7,994人/㎢と比べると、ほどよく人がいる、と言えるでしょう。近隣市町村へのアクセスが良かったため、江別市に住む就業者の46.7%は、江別市外に通勤しています。



地域の活動が活発



自治会では花壇の整備やごみ拾い、夏休みのラジオ体操や登下校の見守りなどが行われています。

住みやすいコミュニティ

豊かな自然

便利な生活環境

快適な交通アクセス

農業や工業が盛ん

子育て・教育環境の充実

公園や自然に恵まれている



南西部に市域の約10%にあたる道立野幌森林公園が広がり、太古の面影を保ちながら豊かな緑が広がります。また、大小合わせて232の公園などがあるので街中にも緑が多く、子どもの遊び場に困りません。

買い物が便利

複数の大手スーパーマーケットが市内各所に立地しているので、日常の買い物に困ることはありません。



学生が多い

市内にある4大学+1短大の学生は、出張講座や大学祭、イベントのボランティア参加などで市民と触れ合う機会があります。



「セラミックアートセンター」での陶芸体験、「ガラス工芸館」での吹きガラス体験、「北海道立埋蔵文化財センター」での制作体験のほか、市内の農場での収穫や乳搾りなど、子どもも大人もさまざまな体験が楽しめます。

子どもも大人も体験できる

全国・全道平均を上回る学力

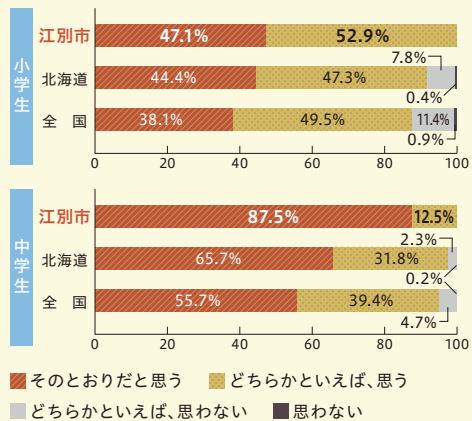
令和5年度全国学力・学習状況調査の教科別の結果（平均正答率）

小学6年生	国語	算数
江別市	70.4%	65.1%
北海道	65.8%	61.0%
全国	67.2%	62.5%

中学3年生	国語	数学	英語
江別市	73.3%	52.5%	46.5%
北海道	69.4%	49.3%	43.9%
全国	69.8%	51.0%	45.6%

令和5年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果

Q 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか？



複数教員による学習支援

児童・生徒一人一人の学習状況に応じた授業を提供するため、学習サポート教員（退職教員など）を全ての小・中学校に派遣し、複数の教員が指導するチーム・ティーチングや、放課後・長期休業中の学習支援を行っています。



小1からネイティブによる英語学習

江別市の小学校では、1年生からの外国語活動を道内でいち早く取り入れました。10人の外国語指導助手を各小・中学校へ派遣し、小さいころからネイティブの英語に慣れ親しみ、異文化を理解し尊重する態度や他者とのコミュニケーション能力を伸ばす教育に取り組んでいます。

遊びを中心とした運動プログラムで体力向上

北翔大学の協力のもと、「走る」「跳ぶ」「投げる」など体を動かす遊びを中心とした運動プログラムを実践することで、あらゆるスポーツや運動の基礎的能力を高める取り組みを行っています。

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	シャトルラン 20m	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
小学5年生	男子	54.2	50.6	50.7	53.2	—	49.7	47.9	52.2	51.2	51.5
	女子	53.2	49.9	50.4	53.9	—	49.9	47.1	51.8	51.7	51.3
中学2年生	男子	52.1	50.2	48.3	50.5	58.6	48.8	48.1	51.2	49.8	49.7
	女子	50.6	47.5	47.4	50.3	53.6	48.5	48.3	49.8	47.8	48.2

※ボール投げは、小学5年生がソフトボール、中学2年生がハンドボール
※中学2年生は、持久走と20mシャトルランのいずれかを選択、小学5年生は20mシャトルランのみ

江別市ならではの体験教育



江別市都市と農村の交流センター えみくる

江別の食と農の魅力を発信し、農村地区と都市部との交流を活性化させるための施設。テストキッチンが併設されており、パンやピザ作り、そば打ちなどさまざまな種類の料理教室を開催しています。



セラミックアートセンター

「観る」「創る」「集う」をコンセプトに、北海道のやきもの文化を発信するセラミックアートセンター。陶芸や絵付け体験ができる講座を定期的に開講しています。



同様に田植えの体験授業もあり、農業が盛んな江別らしい食育が行われています。

小1からの授業の一環として、江別の畑で、小麦が生産されてから麵になるまでをたどる「小麦追跡学習」が行われています。

児童たちは、生産者の小麦畑を訪れ、収穫前のハルユタカに触れながら、一年間の生産の流れや他品種の小麦との違いを学びます。また、「えみくる」で小麦の生産から加工・流通までの過程を学び、その後、実際に製粉・製麺を体験。小麦が身近なところで栽培され、学校給食に提供されるラーメンやパンなどに姿を変え、市民の元に届いていることを学びます。



食育の取り組み



江別市の

教育

全ての小・中学校で小中一貫教育を実施

子どもたちが変化の激しい社会の中で、他者を尊重しながら生きていく力を身に着けるため、江別市では、一人一人の個性に応じたきめ細やかな教育が受けられる環境づくりに取り組んでいます。

令和4年度に先行導入した第二中学校区（モデル校区）に続き、令和5年度から全ての市立小・中学校で「小中一貫教育」

を実施しています。

各中学校区で「中学校卒業時点での目指す子ども像」を共有し、学校・家庭・地域が協力しながら子どもたちを育てます。また、学習や学校生活の基本的なルールを中学校区でそろえ、一貫した指導と系統的な指導を行い、目指す子ども像の実現に向けた取り組みを行います。



悩みを抱える児童生徒をサポート

学校に行きたくても行けない子どもたちの学習支援、生活習慣の改善、悩みや不安の解消、心の居場所づくりなどを目的として「教育支援センターねくす」とを設置。専任指導員や相談員、学習サポーターが子どもたちを支援しています。



小・中学校の全児童・生徒にタブレット端末を貸与

小・中学校に整備したICT機器を活用し、Society 5.0時代に必要な情報活用能力を育成していくとともに、進んで学習に取り組み、周りの人たちと共に考える授業を進め、子どもたちの学び力の育成を図ります。



姉妹都市・友好都市との交流

姉妹都市であるアメリカ・グレンシャム市（中・高校生対象）や友好都市である高知県土佐市（小・中学生対象）との相互交流事業を行っています。体験入学やホームステイなどを通して、異なる文化に対する理解を促し、社会性を育みます。



安全安心でおいしい学校給食

子どもたちが安心して食べることができるよう、江別産の米や小麦、野菜を積極的に使った安全安心でおいしい給食を提供しています。また、給食の献立を生きた教材として、栄養教諭が子どもたちに「食の指導」を行っています。

10 札幌学院大学



1946年に設立された札幌文科専門学院を前身に、道内初の私学文系の高等教育機関として開学。心理学部、人文学部、法学部、経済経営学部を有します。

文京台11

11 北翔大学



スポーツや健康、社会福祉といった多彩な分野を学ぶ生涯スポーツ学部、教育学科と美術芸術学科からなる教育文化学部、短期大学部で構成されています。市民向けの講座が定期的に行われています。

文京台23

12 酪農学園大学



農畜産物の生産や食品の加工・製造、自然科学などをカバーする農食環境学群、臨床獣医や動物看護のスペシャリスト養成を目指す獣医学群からなります。

文京台緑町582

13 北海道情報大学



ICTを核とした4学科で構成され、ビジネス、システム開発、情報通信、宇宙、医療、デザインなど、さまざまな分野で求められる高度IT人材を育成しています。働きながら学べる通信教育部もあります。

西野幌59-2

6 江別市郷土資料館



ふるさと江別、大昔の江別、開拓の始まり、町の発展、産業の歴史の各テーマで江別を紹介。重要文化財となっている江別太遺跡の土器など先史時代の出土品は一見の価値あり。

緑町西1丁目38

7 ほくでん総合研究所



ほくでんグループの研究所。電力会社として必須の3つの基盤領域「電力の安定供給」「環境負荷の軽減」「効率的なエネルギー利用」のほか、地域課題の解決に貢献するための研究開発を行っています。

対雁2-1

8 森林総合研究所
林木育種センター 北海道育種場

トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、カラマツをはじめとする樹木の成長や形質の優れた精英樹、その他選抜個体を基盤とした育種事業に取り組んでいます。

文京台緑町561

9 北海道情報技術研究所



情報通信技術を活用した遠隔教育のための研究・実践拠点です。

北海道情報大学と協同でeラーニング、人工知能、メタバースなど最先端技術の開発に取り組んでいます。

西野幌45

2 北海道立総合研究機構
食品加工研究センター

食品の加工、保存、品質評価などの研究開発を行っているほか、企業などへの新製品、新技術の開発に関するアドバイス、食品の試験や分析を行っています。

文京台緑町589-4

3 北海道立教育研究所



教育に関する研究や教育関係職員の研修を行う機関。所有するサイエンスカーで僻地・小規模校の小学校と中学校を巡回し、科学機器を使用した車内での学習などを実施しています。

文京台東町42

4 北海道立埋蔵文化財センター



埋蔵文化財の保護、保存・活用を図るため、調査研究・出土文化財等の収蔵保管、展示公開・普及啓発を行う施設。無料の体験学習「縄文工房」では、ミニ土器や勾玉づくりなどの体験ができます。

西野幌685-1

5 セラミックアートセンター



北海道で現在活動中の窯元の作品や北海道のれんが産業の歴史を展示するほか、陶芸教室も開催。広々としたレンタル工房や、レンタル窯もあります。

西野幌114-5

江別市の

教育・研究機関

国立・道立の研究機関や私立大学など、「知」の集積地帯でもある江別市。特に文京台地区には多くの施設が集まっています。



1 北海道立図書館



120万冊の図書、3万タイトルの新聞・雑誌を所蔵しています。北方資料室では、北海道はもとより、旧樺太や千島列島などについての資料を収集・保存しています。

文京台東町41

数値で見る「子育て」



保育園・幼稚園の数 **43**カ所

※認定こども園、地域型保育施設を含む



放課後児童クラブの数 **27**カ所

※令和6年4月1日現在



0～14歳の人口 **13,470**人

※令和6年8月1日現在



ファミリー・サポート登録会員数
依頼会員 **387**人 / 提供会員 **89**人

※令和6年4月1日現在



子育て支援センターの数 **8**カ所



市内事業者の声

スタッフ・保育士
つたあけの
月田 麻友子さん

赤ちゃんエリア、2～3歳エリア、4歳以上エリアと区分けして安全に楽しく遊べるよう配慮されています。

イオンタウン江別の2階にある、江別市が運営する屋内型の遊び場。0歳から小学6年生までの子どもと保護者が無料で利用できます。子育てに関する講習会や「英語であそぼう」、スポーツ体験などの親子で楽しめるイベントの開催、子育て情報の提供、子育て支援コーディネーターによる子育て相談など、さまざまな形で子育てを支援しています。

開設10周年となった2023年には大型複合遊具を入れ替えるなど大幅リニューアルし、よりゆとりと遊べるようになりました。

「スタッフが3～4人常駐しているので、安心して遊べます」という声をいただくことが多いです。子育ての相談にも応じているので、気軽に来てほしいです」とスタッフの月田麻友子さんは話します。

ぼこ あぼこ 野幌町10-1 イオンタウン江別2階



江別市が取り組む子育て支援



ファミリー・サポート・センター

子どもの継続的・定期的な預かりや送迎などを手助けしてほしい人(依頼会員)と、手伝いのできる人(提供会員)で会員組織を作り、地域の人みんなで子育てを応援する仕組みです。



子育て支援コーディネーター

各地域で開催されている「あそびのひろば」や子育てひろば「ぼこ あぼこ」、市役所子ども育成課などで、子育て家庭が必要とする情報をお知らせしたり、子育てに関する相談を受けたりしています。



子育て支援センター

就学前の子どもと保護者が、自由に遊べる交流の場。楽しいおもちゃであふれる空間で遊んだり、ほかの親子と交流したりすることができます。身近に住む子育て仲間と知り合う機会にもなります。



病児・病後児保育

保護者が仕事などの理由で、病気の子どもの保育できない場合に、保護者に代わって保育する病児・病後児保育施設が市内に2カ所があります。乳幼児から小学6年生まで利用できます。うち1カ所は小児科に併設されています。

マタニティスクール
プレママ・プレパパ向けの育児体験

安心して出産を迎えられるよう、また出産後の育児に関する不安を軽減できるよう実施しています。



母子健康手帳の交付

交付時には保健師や助産師が個別に面談を行い、安心して産み育てるための情報を伝えたり、相談に応じたりしています。

子育て環境が充実

江別市では、妊娠・出産期をサポートする事業の実施や、子育て中の方が集まることのできる場所を設けることで地域で子育てを支える仕組みをつくり、子どもを安心して産み育てられるまちを目指しています。

市内には40カ所以上の保育園、認定こども園、幼稚園などがあります。都市部に比べて敷地が広く、園庭のある園が多いため、子どもがのびのび過ごせる環境

が整っています。

就学前の子どもと保護者が自由に遊び、友達づくりをしたり、子育ての不安や悩みを相談したりできる交流の場として、子育て支援センターがあります。市内8カ所に設置され、子育てに関する講演会・講習会の実施や情報の提供なども行っています。

まちが一つとなつて、子育てを応援しています。



本を読んだり、カードゲームやボードゲームなどで遊べたりするほか、パドミントンやボール遊びなどで体を動かすこともできます。

児童センター

幼児から高校生までのさまざまな年齢の子どもたちが自由に遊ぶことができる児童センターが、市内に7カ所あります。各児童センターには遊びをサポートする児童厚生員が常駐しています。



市が開設する放課後児童クラブの一つ、森の子児童クラブ(文京台7-4)。

放課後児童クラブ

市内に27カ所ある放課後児童クラブは、小学生を対象に、保護者または保護者に準ずる方が、昼間仕事などのため家庭にいない場合や病気などで昼間に面倒を見ることができない場合に、申請をすることで利用できます。令和7年度には新たに3カ所開設される予定です。



こんにちは赤ちゃん事業

生後4カ月までの赤ちゃんのいる家庭を訪問し、絵本や粉ミルク引換券を配布するほか、江別市の子育て情報を提供しています。



産後ケア事業

お母さんが産後の体調管理や育児指導・サポートを受け、安心して子育てができるよう、産科医療機関・助産院で産後ケア事業を実施しています。

江別市の産業



市内事業者の声

岩谷技研

特殊な気球による宇宙遊覧サービスの提供を目指す株式会社岩谷技研は、ＪＲ大塚駅周辺に本社や工場など複数の事業所を構えています。

丈夫で軽量の気球、乗員を収めるキャビンとその周辺機器類は自社で開発・製造。工場ではこれまで３５０以上の気球を製造してきました。

学生時代から気球と小型カメラを使って成層圏からの撮影に取り組んでいた代表取締役の岩谷圭介さん。徐々に重いものを飛ばせるようになる中で生まれた、「これなら人も飛ばせる」という型破りな発想から気球による宇宙遊覧のプロジェクトは始まりました。２０１１年の小型気球から開発をスタートさせ、実に４００回以上の飛行試験を経て、２０２４年７月にはパイロット１人が搭乗した有人飛行試験で高度２万８１６ｍに到達。この時はパイロットと乗客の２人乗りのキャビンを打ち上げましたが、乗客５人を収容する６人乗りのものへと徐々に大型化する計画です。

今後は気球の大型化や製造の効率化を見据えて、市内に新工



場を建設したいと考えており、「気球の製造には広いスペースが必要なので、広い土地を確保できる点で江別は理想的な場所です。札幌から通うスタッフが多いので、アクセスが良いこともポイントですね」と岩谷さんは話します。

現在、宇宙遊覧フライトの第一期の搭乗契約者が複数人おり、２０２５年に商業運航を予定しているそうです。宇宙と地球を眺める旅が身近になる時代が江別市から始まる——岩谷技研の挑戦から目が離せません。



代表取締役
岩谷 圭介さん

市内事業者の声

江別製粉

１９４８年に設立された江別製粉株式会社。同社の商品は全国に出荷されており、パンやお菓子などの形で口にしたことがある方も多いかもしれません。北海道小麦１００％のミックス粉「おやつイン」やパスタなどの家庭向け商品でも知られています。

設立当初は輸入小麦を原料にしていましたが、３０年以上前から北海道小麦の研究と商品の開発を手がけ、国産小麦のブランド化に貢献してきました。

北海道小麦の普及活動など農業生産者との交流の中で、「自分の栽培した小麦を食べたい」「地場産の小麦で特産品を作りたい」という要望が出てきました。「江別製粉では、通常２５トン単位で小麦を製粉します。しかし個人や町単位で採れる小麦は少量なので、個別で挽くことは難しい。その要望に応えるために、従来の設備では難しかった１トン程度の少量の原料を製粉でき『E-ship』（エフシップ）」という設備を作りました。

“麦の里”と呼ばれるほど小麦の栽培が盛んで、工場と生産者が近い江別市だからこそこ



農業から宇宙産業まで、幅広い事業者が活躍

１８７１年、宮城県から２１戸７６人の農民が移住してきたことを皮切りに近代江別の歴史は始まりました。その後各地から屯田兵が入り、計画的な開拓が進められました。現在でも農業は江別市の主要な産業の一つであり続け、小麦をはじめ水稻や大豆、野菜類が栽培されています。

工業に目を向けると、開発に使う建築資材として１８９１年にれんがの製造が始まって以来、長い窯業の歴史を持っています。市内にはれんがで造られたバス



「EBRI(エブリ)」は、窯業とれんがの歴史を伝える産業遺産である旧ヒダ工場を活用した商業施設です。都市景観賞(建造物部門)にも選ばれています。

数値で見る「産業」



農業従事者数

882人

※令和6年3月31日現在、「江別市の農業」より



江別工業団地・RTNパークの企業数

228社

※令和5年8月時点



江別市の北部を走る国道275号に隣接する江別第1工業団地と江別第2工業団地。利便性に富んだ交通アクセス環境を生かし、製造・流通関連企業が集積しています。

停などがあり、まちづくりにも生かされています。１９０８年には富士製紙第５工場(現王子エフテックス(株)江別工場)が操業を開始。昭和・平成に入ってからには工栄町や角山に工業団地が、また、西野幌には先端技術関連施設の集積を目指したRTN構想に基づく「RTNパーク」が整備され、現在は、食品関連産業も集積するエリアになりました。開拓時代から続く農業とともに、工業も江別市を支える重要な産業となっています。

江別産の小麦商品



ケーキ・焼き菓子

バウムクーヘンやシフォンケーキ、クッキーなどの洋菓子にも利用されています。



えべちゅんら〜めん

希少品種の小麦「ハルユタカ」をブレンドした、江別産小麦１００％のら〜めんです。



パン

市内に数多くあるパン店の中には、江別産の小麦粉を使っているところも。

協働のまちづくりの推進



みんなで支え合う安心なまち

江別市では、協働によるまちづくりを推進しています。協働とは、市民と市がそれぞれの役割を理解し、互いの良いところを認め合いながら、地域の課題解決に向けて、協力して取り組むことです。

江別市自治基本条例で掲げる市民自治の理念に基づき、市政への市民参加を進めることで市民主体のまちづくりを目指すとともに、市民、自治

会、NPO、ボランティア・市民活動団体、企業、大学などの各種団体と連携し、協働のまちづくりに取り組んでいます。

市は、協働のまちづくりを推進するため、市民活動団体などが独自の発想や専門性を活かして実施する、地域の課題解決や活性化につながることを期待される公益的な事業に対して支援をしています。

えべつ協働ねっとわーくが主催した、まちづくりのワークショップ。自分たちが住みたい・暮らしたいまちの姿を考え、カードを使って対話しながらまちづくりの戦略を作り「協働のまちづくり」を共に考えました。



江別市高齢者クラブ連合会が主催する演芸大会。パークゴルフ大会や体力測定会もあり、日頃の活動の集大成として楽しみにしている方が多くいます。



「EBETSUto」による大麻銀座商店街でのイベント。大学生が地域と関わりを持ち、まちづくりに参加することで、まちに活気が生まれます。



市内事業者の声

NPO法人えべつ協働ねっとわーく



江別市には、ボランティア活動やまちづくり、国際交流、文化芸術活動といった公益的な性質を持つ市民活動団体が200、300団体あります。

2006年に設立された「江別市民活動センターあいは、その活動を推進する拠点として情報を集約・発信し、団体と市民・企業・行政とのネットワークを作ることによって市民活動の活性化に努めています。

ここを運営するのが、えべつ協働ねっとわーくです。研修会の開催や相談を受けることで各団体の活動を支援するほか、市内の大学生がボランティア活動や企業訪問を通して、多様な立場の方や地域と関わり、さまざまな経験を得ることができ、江別市の事業「ジモ×ガク」の事務局を務めるなど、その業務は多岐にわたります。

事務局長の成田裕之さんは、「江別市を改めて知り、もっと好きになつてもらうことで、まちづくりや協働に興味を持ってほしい」という想いから、2010年に「江別まち検定」を始め、現在も作問などを行っています。



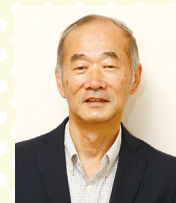
事務局長
なりた ひろゆき
成田 裕之さん

江別市高齢者クラブ連合会



江別市内にある高齢者クラブの活動をサポートするとともに、各クラブへの情報提供や全体的な事業を行っているのが江別市高齢者クラブ連合会です。

高齢者クラブとは、同じ地域に暮らす高齢者が集まって活動している組織。江別市内には61のクラブに2600人ほどのメンバーがあり、パークゴルフやウォーキングで体を動かしたり、囲碁やマージャンなどで交流したり、子どもたちの見守りなどの社会貢献活動を行ったりと自分に合った方法で活動しています。連合会ではパークゴルフ大会や演芸大会など、クラブの枠を越えたイベントを企画・運営しています。



事務局長
ふじた まさひろ
藤田 政典さん

community HUB 江別港



大麻銀座商店街にある「コミュニティスペース」がcommunity HUB 江別港。地元の製麺会社、株式会社菊水の袋麺をアレンジして提供する「cfe&noodle menukoiya」も併設されています。

4大学1短大の学生が集まる江別市で、若者だけでなく地域内外の多様な人たちが交流できる場として設立されました。2013年からスタートした、大学生と地域を結び、仕組みづくりを目的としたプロジェクトでは、活動拠点や出会いの場として活用されています。

江別港代表の橋本正彦さんは、大麻銀座商店街は、「協働」の視点があふれる店主が集まり活気があります。「ハブ」として人が集まり、出会える

場所として利用してほしい」と話します。

市内の大学生が「やってみたい」ことを仲間や市民と一緒に実現するプロジェクト「EBETSUto(エベツト)」のコーディネーターでもある橋本さん。市内で壁画アートを描いたり、大麻銀座商店街でイベントを開催していたりと、学生が地域で活躍する手助けをしています。

ここで若者たちが育ち、港から社会という海に出て社会を変える、そんな未来を思い描かせてくれる、希望にあふれた場所です。



代表
はしもと まさひろ
橋本 正彦さん

— 自然と共に生きるまち —



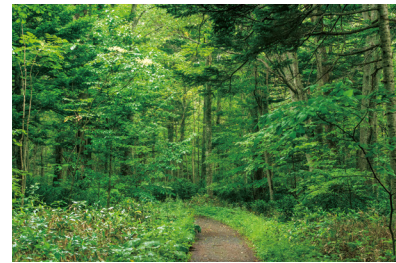
森林と河川に恵まれ、自然が生活の一部

野幌丘陵とその周辺の低地に位置する江別市。野幌丘陵には野幌森林公園をはじめとする、開拓以前の名残をとどめる豊かな自然が広がります。

野幌森林公園は、大都市に隣接した平地林として世界的に貴重な森林。2053haにもおよぶ園内には5カ所から入ることのできる遊歩道があり、緑の季節にはさまざまな花や野鳥

の観察のほか、森林浴、冬には歩くスキーなど、年間を通して多くの人々に利用されています。

丘陵を取り囲むように広がる低地には、石狩川を筆頭に大小42の河川が流れています。その周囲には田畑や防風林が広がり、江別市の原風景を今に伝えています。



自然林と、針葉樹などを植栽した人工林からなる野幌森林公園。自然林には太さが1mを超える大木も多く、開拓以前の自然の様子を知ることができます。



写真の泉の沼公園のように、自然の地形を生かした公園や緑地が市内に点在しています。



石狩川の流域に当たる北部は緑が多く、石狩川と篠津川との合流地点にあるしのつ河群林は、北海道の環境緑地保護地区に指定されている野鳥や小動物の宝庫です。

市民の声

江別に帰ってきて自然を見るとホッとしています



伊藤 孝太さん
沙喜子さん
玄くん



横浜市から江別市に移住してきた伊藤孝太さん、沙喜子さん、玄くんのご家族。スポーツ用品輸入代理店に勤務する孝太さんにとって、江別の自然は魅力的に映ったようです。

「豊かな自然のなかで子育てをしたくて、結婚を機に横浜から地元の江別へ移住しました。移住前と同じく、横浜が本社のスポーツ用品輸入代理店で、今はフルリモートで働いています。道外、海外への出張も多い仕事ですが、江別に帰って森や雪を見るとホッとします。スキーをする人間から見ると、江別って最高の環境なんです。」



クロスカントリーなら近隣の野幌森林公園へ、グレンデなら岩見沢市や長沼町へ車で約30分。以前は3〜4時間かけて東京近郊のスキー場に通っていたので、夢のようです。

高校時代まで、江別は何もないのが当たり前だと思っていた。でも、都会や海外での仕事、多くの出会いを経験して、何もないというのは当たり前じゃないと気付いたんです。治安が良く、みんなの顔がわかるまちな規模。これって、幸せなことなんだと。一度離れたことで、改めて江別の良さがわかった気がします」

野幌森林公園の動植物

野幌森林公園では、四季折々の動植物を観察することができます。多くの市民が散策に訪れます。エゾフクロウやクマガラなどの野鳥や、「昭和の森のカツラ」などの巨樹・巨木も見ることができます。



野幌森林公園大沢口にある自然ふれあい交流館では、森林公園に生息する動植物の紹介や園内の散策路図、最新情報がわかる伝言板や自然情報誌などが常設されています。



ミズバショウ



オオバナノエンレイソウ



シマエナガ



エゾリス



オオタチツボスミレ



フクジュソウ



キビタキ



キタキツネ



北海道 江別市

〒067-8674
北海道江別市高砂町6番地
[TEL] 011-382-4141 (代表)
[FAX] 011-381-1070

令和6年発行



江別市
ホームページ